

2019年フィリピンの地方自治意識調査(1)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 大阪市立大学法学会 公開日: 2022-02-02 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 西村, 謙一, 小林, 盾, 菊地, 端夫, 永井, 史男 メールアドレス: 所属: 大阪大学, 成蹊大学, 明治大学, 大阪市立大学
URL	https://doi.org/10.24544/ocu.20220202-001

In April 2022, Osaka City University and Osaka Prefecture University merge to Osaka Metropolitan University

Title	2019年フィリピンの地方自治意識調査(1)
Author	西村, 謙一 / 小林, 盾 / 菊地, 端夫 / 永井, 史男
Citation	大阪市立大学法学雑誌. 67 卷 3 号, p.227-255.
Issue Date	2021-01
ISSN	0441-0351
Type	Research Paper
Textversion	Publisher
Publisher	大阪市立大学法学会
Description	
DOI	10.24544/ocu.20220202-001

Placed on: Osaka City University

Osaka Metropolitan University

〈資 料〉

2019年フィリピンの地方自治意識調査（1）

西村謙一／小林 盾
菊地端夫／永井史男

I 調査の概要

本稿は、2019年初めに実施されたフィリピンの地方自治に関する住民意識調査の結果についての報告である。この調査の名称は「2019年フィリピンの地方自治意識調査」（英語名：2019 Opinion Survey on Local Governance in the Philippines）であり、科学研究費補助金基盤研究（A）（海外学術）「東南アジア地方自治ガバナンスに関する住民意識調査——フィリピンとインドネシアの比較」（研究代表者：西村謙一，2015年度—2018年度）の一部として実施された。

本調査の準備は2015年から開始された。同年10月および11月には、社会調査の専門家と地方自治意識調査の専門家を講師として招いて研究会を開催し、地方自治に関する住民意識調査の方法論等に関する知見の蓄積を図った。これと並行して同年後半から2016年2月にかけて予備調査のための調査票作成作業を実施し、同月に1回目の予備調査をマニラ首都圏で行った。また、この際にフィリピンで実査を依頼する予定の現地調査会社 Social Weather Stations（以後 SWS）の担当者とサンプルサイズや自治体サンプリング法について1回目の協議を行った。

2016年2月の予備調査の結果を受けて、社会調査の専門家の助言も得つつ5月から8月にかけて研究会を2回開催して調査方法を協議するとともに調査票の改定作業を繰り返し、同年8月にマニラ首都圏およびカピテ州で2回目の予備調査を実施した。また、9月にはバターン州およびカピテ州において住民参加型の地方自治の現状調査を実施した。8月から9月にかけての一連の調査の結果をもとに、10月以降、調査票の改定作業を継続した。

2017年度の前半は、調査票の改定作業を続け、8月から9月にかけて、フィリピンにおいてカピテ州およびビコール地方出身者を対象に、改定した調査票を用いた3回目の予備調査を実施した。この結果を受けて調査票改定作業を繰り返す一方で、10月には

資 料

フィリピンにおいて SWS の担当者とは再度協議を行い、サンプルサイズおよび各サンプル自治体内における調査対象者の抽出方法について検討した。この後、2017年度内はサンプルサイズの検討と調査票の改定を継続して行った。

2018年度の前半に、フィリピンと同時に調査を実施するインドネシアの調査票との整合性をとりつつ調査票の改定を進め、8月に SWS と協議しつつ予備調査のための調査票を作成した。そして、この調査票を用いてブラカン州とパターン州で調査を行い、また、カピテ州では市・町の下にある自治体（バランガイ）の首長および市レベルの開発協議会に参加している住民組織や NGO 関係者と面談して、特に住民参加に関わる質問項目の妥当性についての確認を行った。8月の一連の調査の結果をもとに、9月から10月にかけて最終的な調査票改定作業を実施した。そして、11月にアルバイ州およびカピテ州で SWS とともに最後の予備調査を実施した。

これと並行して、11月から2019年1月にかけて、調査地点の抽出作業を統計調査法の専門家の助力を得て実施した。本調査は、2009年度から2012年度にかけて実施された科学研究費補助金基盤研究（A）（海外学術）「東南アジアにおける地方自治サーヴェイ調査——タイ、インドネシア、フィリピンの比較」（研究代表者：永井史男）の成果を受けて立案されたものであるため、当該研究で調査を実施した300の市町の中から80の調査自治体を（一部有意抽出とし）ランダムに抽出した。

以上の準備を経て、2019年2月から3月にかけて実査を行った。

調査方法は訪問面接調査である。SWS に委託し、2019年2月24日から3月6日にかけて実施された。

母集団は、（基礎自治体である市町に着目し）ムスリム・ミンダナオ自治地域を除く全1515市町における20歳以上の個人である。計画標本は、多段無作為抽出法による2400人であった。上述のように、2011年フィリピン地方自治体エリートサーベイ調査の対象となった300市町をもとに、ここから80市町を（一部有意抽出とし）ランダムサンプリングで抽出した¹⁾。具体的には、バギオ (Baguio) 市、セブ (Cebu) 市、ダバオ (Davao) 市の3つを有意抽出した。そのあと、のこり297市町を北から一列にならべ、人口規模を考慮して80市町を系統抽出した。その結果、ルソン島から55市町、ビサヤ諸島から13市町、ミンダナオ島から12市町が選ばれた。市町別では、34市、46町となった。

各市町において、市町内すべてのバランガイをフィリピン統計局 (Philippine

1) 2011年調査については西村他 (2015) 参照。

2019年フィリピンの地方自治意識調査（1）（西村・小林・菊地・永井）

Statistical Authority, 以下 PSA と略)によるバランガイ名簿順にならべ, 地点として5つのバランガイを, 人口規模を考慮して系統抽出した(スタート番号をランダムサンプリングしてから一定間隔で個人を抽出し, その個人がいるバランガイを地点とする)。予備として, 各市町につき3バランガイを抽出した。ここまでのサンプリングを日本チームが実施し, ここ以降のサンプリングを SWS が実施した。

各バランガイにおいて男性3人, 女性3人を抽出した。そのために, 6世帯を選ぶ。もしバランガイが世帯名簿をもっていたら, 名簿から世帯を単純無作為抽出する。もしもっていないなら, エリアサンプリングをおこなう。バランガイホールを起点とし, スタート世帯を(都市バランガイでは1から25の間, 地方バランガイでは1から5の間から)ランダムに選ぶ。そこから, 都市バランガイでは世帯間隔を6, 地方バランガイでは2として, 等間隔で世帯を抽出する。抽出された世帯のうち, 最初の世帯と奇数番目の世帯から男性を, 2番目の世帯と偶数番目の世帯から女性を抽出した。

世帯のなかでは, キッシュ・グリッドを用いて20歳以上の(男性または女性の)候補者から, 1人を抽出した。

こうして, 各市町から5バランガイを, 各バランガイから6世帯を, 各世帯から(男女順番に)1人を抽出し, 80市町×5バランガイ×6人で合計2400人が計画標本となった。

謝礼として, 調査会社名いりのトークン(バッジ)を, 調査終了後に回答者に手渡しした。拒否, 不在, 空き家などで調査できない場合, (世帯名簿があるなら)次の該当者, (エリアサンプリングなら)つぎの間隔の世帯とした。実査まえに, 調査員へのインストラクション(field interview training, FIT)が, 各市町で実施された。

有効回収数と有効回収率は, 2400人, 100.0%であった。

標本の内訳や平均は, 以下のとおりである(N=2400)。男性50.0%/女性50.0%, 平均年齢45.1歳, 未婚12.0%/現在結婚56.3%/同棲19.7%/離別3.1%/死別9.0%, 平均世帯人数4.7人, 平均子ども数2.9人, 公的教育なし1.4%/小学校卒24.7%/中学卒10.6%/高校卒35.0%/職業訓練校・短大卒9.8%/大学卒17.8%/大学院卒0.8%, 正社員・正規労働者36.2%/契約社員・非正規労働者12.7%/自営業・家族ビジネス11.2%/主婦・主夫21.1%/失業者・学生18.9%であった。

なお, この調査は前年度に実施された「2018年インドネシアの地方自治意識調査」(英語名は 2018 Opinion Survey on Local Governance in Indonesia)と厳密に比較できるようにデザインされている。そのため, 調査票の質問番号はすべて, インドネシア調査と対応している。フィリピン調査に独自の質問は, インドネシア調査の「Q4」にたい

資 料

して「Q4.2」のように区別できるようになっている²⁾。

II 調査結果の概要

II-1 基本情報

まず、性別では、総サンプル2400のうち、男性が1200人、女性が1200人と、ちょうど半数ずつとなっている。インタビュー対象者は、2016年の選挙時点で選挙権を有する18歳以上（調査時点で20歳以上）の者としており、年齢層は20歳から93歳までの幅がある。最も多い年齢層が30歳代で550人である。以下、40歳代の477人、50歳代の449人、20歳代の447人、60歳代の297人、70歳代の144人と続き、80歳代が33人、90歳代は3人である（表1-1）。

宗教について尋ねたところ（問3）、カトリック教徒が2023人（84.3%）、プロテスタント教徒が114人（4.8%）、カトリック・プロテスタント以外のキリスト教徒が124人（5.2%）、イグレスシア・ニ・クリスト信者が70人（2.9%）、イグレスシア・ニ・クリスト以外の土着キリスト教徒が36人（1.5%）、イスラーム教徒が29人（1.2%）、その他（仏教含む）が4人（0.2%）となった（表1-2）。PSAの資料³⁾では、カトリック教徒が80%程度、イスラーム教徒が6%程度であるのに対して、本調査ではカトリック教徒の割合が高く、イスラーム教徒の割合が低く出ている。これは、本調査がイスラーム教徒の多く居住するムスリム・ミンダナオ自治地域を除外していることによるものと推察される。

エスニシティについては（問4.2）、タガログが928人（38.7%）、セブアノが309人（12.9%）、ヒリガイノン（イロンゴ）が253人（10.5%）、イロカノが247人（10.3%）、ビコールが145人（6.0%）、ワライが65人（2.7%）、カパンパンガンが60人（2.5%）、パンガシネンゼが37人（1.5%）、セブアノ・ヒリガイノン（イロンゴ）・ワライ以外のビサヤが232人（9.7%）、その他が124人（5.2%）である（表1-3）。これに続いて、家庭で主に使う言語についても聞いた（問5.2）。その結果は、タガログ語が1242人（51.8%）、セブアノ語が414人（17.3%）、イロカノ語が207人（8.6%）、ヒリガイノン語が176人（7.3%）、ビコール語が68人（2.8%）、カパンパンガン語が57人（2.4%）、ワライ語が34人（1.5%）、セブアノ語・ヒリガイノン語・ワライ語以外のビサヤ語が

2) インドネシア調査については小林他（2019）参照。

3) Philippine Statistical Authority (2019). *2019 Philippines in Figures*, (https://psa.gov.ph/sites/default/files/PIF2019_revised.pdf), p. 23. (最終アクセス：2020年9月30日)

2019年フィリピンの地方自治意識調査（1）（西村・小林・菊地・永井）

138人（5.8%）、フィリピノ語が5人（0.2%）、その他が59人（2.5%）である（表1-4）。

PSAの資料⁴⁾は、エスニシティと母語を同一のくくりにして集計しているが、本調査の結果からは、母語（≒エスニシティ）と家庭で主に使用する言語とは必ずしも一致しないことが示されている。例えば、ヒリガイノン人は253人いるのに対して家庭でヒリガイノン語を使用する者は176人とどまるし、65人いるワライ人のうち家庭でワライ語を使用する者は34人にすぎない。他方でエスニシティとしてのタガログ人は928人であるのに対して家庭でタガログ語を用いる者は1242人と過半数に及ぶ。これは、婚姻や国内移住によって母語とは異なる言語を家庭内で使用するようになることがある、という事実を反映していると考えられる。また、タガログ語がフィリピンの公用語フィリピノ語の基礎となり、学校教育においてフィリピノ語教育が全国的に行われていることは、異なる母語の者がタガログ語を家庭内言語として用いる傾向を促進していると考えられる。

家族構成に関する質問の中で存命中の子供の数については（問6）、3人以上いると答えた回答者が過半数の1205人（50.2%）で、平均値は2.9人、中央値は3人となった（表1-5）。また、回答者と同居している両親、義父母、祖父母、義理の祖父母については（問7.C）、誰もいないという回答が1903人（79.3%）と多数を占めており、1世帯が両親と子供だけで構成される核家族化が進んでいることがわかる（表1-6）。

続いて家の状況について尋ねた（問8、問11、問11.2）。まず、寝室については1部屋という回答が1106人（46.1%）と最も多く、2部屋が824人（34.3%）、3部屋が358人（14.9%）と続く。子供の数の多さ（3人以上が回答者の半数を占める）を考えると、狭めの家に居住する者がやや多いということができよう（表1-7）。持ち家率は82.5%で、土地所有比率は66.1%であった（表1-8および1-9）。PSAは、2015年センサスの結果に基づいて家屋所有形態と土地所有形態の結果を示している⁵⁾。これによれば、自家所有比率はおおよそ80%で土地所有比率は約55%となっており、本調査の結果はフィリピンにおける家屋および土地所有形態の実相をおおよそ反映しているといえよう。

4) Philippine Statistical Authority (2019). *2019 Philippines in Figures*, (https://psa.gov.ph/sites/default/files/PIF2019_revised.pdf), p. 23. (最終アクセス：2020年9月30日)

5) Philippine Statistical Authority (2018). *Housing Characteristics in the Philippines (Results of the 2015 Census of Population)*, (<https://psa.gov.ph/population-and-housing/node/129804>), (最終アクセス：2020年9月30日)

資 料

表 1-1. 年齢層 (10歳ごと)

	度 数	%
20代	447	18.6
30代	550	22.9
40代	477	19.9
50代	449	18.7
60代	297	12.4
70代	144	6.0
80代	33	1.4
90代	3	0.1
合 計	2400	100.0

表 1-2. 宗 教

	度 数	%
イスラーム	29	1.2
カトリック	2023	84.3
プロテスタント	114	4.8
カトリック, プロテスタント以外のキリスト教会	124	5.2
土着のキリスト教会	36	1.5
イグレシア・ニ・クリスト	70	2.9
仏 教	1	0.0
その他	3	0.1
合 計	2400	100.0

表1-3. エスニシテイ

	度 数	%
イロカノ	247	10.3
タガログ	928	38.7
セブアノ	309	12.9
ビサヤ	232	9.7
ヒリガイノン（イロンゴ）	253	10.5
ピコール	145	6.0
ワライ	65	2.7
カパンパンガン	60	2.5
パンガシネンゼ	37	1.5
その他	124	5.2
合 計	2400	100.0

表1-4. 家庭で主に使う言語

	度 数	%
イロカノ語	207	8.6
タガログ語	1242	51.8
セブアノ語	414	17.3
ヒリガイノン語	176	7.3
ピコール語	68	2.8
ワライ語	34	1.4
フィリピノ語	5	0.2
カパンパンガン語	57	2.4
その他のビサヤ語	138	5.8
その他	59	2.5
合 計	2400	100.0

資 料

表1-5. 現在、(存命の) 子供は 何人いますか？
 表1-6. 何人の人が家に住んでいますか？ (両親, 義父母, 祖父母, 義理の祖父母の数)

	度 数	%	度 数	%
0	326	13.6	1903	79.3
1	367	15.3	265	11.0
2	502	20.9	165	6.9
3	458	19.1	21	0.9
4	266	11.1	20	0.8
5	173	7.2	12	0.5
6	128	5.3	11	0.5
7	83	3.5	1	0.0
8	45	1.9	2	0.1
9	24	1.0		
10	16	0.7		
11	8	0.3		
13	2	0.1		
14	1	0.0		
15	1	0.0		
合 計	2400	100.0	2400	100.0

2019年フィリピンの地方自治意識調査（1）（西村・小林・菊地・永井）

表1-7. 全部で寝室（通常は人が寝るときに使う部屋）はいくつありますか？

	度 数	%
1	1106	46.1
2	824	34.3
3	358	14.9
4	93	3.9
5	14	0.6
6	4	0.2
8	1	0.0
合 計	2400	100.0

表1-8. この家の所有状況はどうなっていますか？

表1-9. この土地の所有状況はどうなっていますか？

	度 数	%	度 数	%
自分・家族所有	1979	82.5	1587	66.1
賃 貸	365	15.2	368	15.3
公有地			193	8.0
その他	56	2.3	252	10.5
合 計	2400	100.0	2400	100.0

II-2 仕事と結婚

問15.2で仕事の有無について聞いたところ、回答者の60%（1441人）が従業上の地位に関わらず仕事をしており、907人（37.8%）が無職、52人（2.2%）は学生であった（表2-1）。そこで、問16.2_Bで従業上の地位について尋ねたところ、主婦・主夫／失業中・学生（959人）を除けば正社員・正規労働者が最も多くて868人（36.2%）となり、次いで契約社員・非正規労働者が305人（12.7%）、自営業・家族ビジネスが268人（11.2%）となった（表2-2）。また、現在の従業上の地位が管理職か非管理職かを聞いてみると（問16.3_B）、非管理職が806人（33.6%）と多いものの管理職も635人（26.5%）いる（表2-3）。

資 料

続いて、回答者のパートナー（配偶者もしくは同棲中の相手）の従業上の地位について聞いた（問16_C）。問17への回答に見るように、回答者2400人中、未婚287人（12.0%）、離婚74人（3.1%）、死別215人（9.0%）となっており、パートナーがいる者（婚姻もしくは同棲中の者）は1824人（76.0%）である。このうち、パートナーが正社員・正規労働者であるのが最も多くて787人（32.8%）、次いで主婦・主夫が436人（18.2%）である。この後、自営業・家族ビジネスが306人（12.8%）、失業中・学生が146人（6.1%）、契約社員・非正規労働者が140人（5.8%）と続く（表2-4）。このうち非管理職が923人（38.5%）、管理職が310人（12.9%）である（表2-5）。

回答者が15歳のときの父親や母親の仕事を尋ねたところ（問16_D, E）、父親は正社員・正規労働者が最も多く1598人（66.6%）、母親は主婦が1238人（51.6%）で最も多かった。次いで、父親の場合は自営業・家族ビジネス482人（20.1%）、母親は正社員・正規労働者561人（23.4%）が多かった。仕事をしている者の中では、父親も母親も非管理職が多い（表2-6、2-7）。

問17で配偶者の有無を聞いたところ、既婚が1351人（56.3%）で最も多いが、これに次いで多いのが同棲473人（19.7%）で、この後、未婚、死別、離婚と続く（表2-8）。同棲が多い背景として、離婚が法的に容易でないフィリピンにおいて婚姻関係が不安定さを増している現状があり、このことが特に若い世代を中心に同棲を選好する人々を増加させているとの指摘がある（Abalos 2017）。

問18で最初の配偶者との出会いについて聞いたところ、未婚者287人（12.0%）を除くと、職場で出会ったが608人（25.3%）で最も多く、次いで、隣人・幼馴染502人（20.9%）、友達による紹介257人（10.7%）、学校で出会った159人（6.6%）、家族・親族による紹介131人（5.5%）となった（表2-9）。

問19では、最初の仕事を始めた年齢を聞いたところ（問19_B）、618人（25.8%）が16歳、445人（18.5%）が18歳、264人（11.0%）が20歳と答えた。中学卒、職業訓練校卒、大学卒で初めての仕事についてた者が多いことがうかがえる。最初にデートした年齢については（問19_D）、15歳から20歳と答えた者が約3分の2を占めた（1569人、65.4%）。初婚年齢は（問19_E）、25歳が154人（6.4%）と最も多く、次いで22歳が138人（5.8%）となるが、18歳から25歳の間にほぼ均等に散らばっている（18歳がこの年齢層では最も少なく105人（4.4%））。最初に子供が生まれた年齢で多いのが（問19_F）、19歳から26歳までの各年齢で、最小が26歳の143人（6.0%）、最大が21歳の181人（7.5%）となっている。

2019年フィリピンの地方自治意識調査（1）（西村・小林・菊地・永井）

表2-1. あなたは、現在、仕事をしていますか？

	度 数	%
仕事をしている，正社員・正規労働者，契約社員・非正規労働者，自営業，家族ビジネスを含む	1441	60.0
学 生	52	2.2
仕事をしていない，主婦・主夫，退職者を含む	907	37.8
合 計	2400	100.0

表2-2. 従業上の地位（あなた）

	現在のあなたの仕事	
	度 数	%
正社員・正規労働者	868	36.2
契約社員・非正規労働者	305	12.7
自営業，家族ビジネス	268	11.2
主婦・主夫	506	21.1
失業中・学生	453	18.9
合 計	2400	100.0

表2-3. 管理職か否か（あなた）

	現在のあなたの仕事	
	度 数	%
管理職	635	26.5
非管理職	806	33.6
主婦・主夫／失業中・学生	959	40.0
合 計	2400	100.0

資 料

表2-4. 従業上の地位（あなたの妻・夫）

	あなたの妻・夫の仕事 (もしあれば)	
	度 数	%
正社員・正規労働者	787	32.8
契約社員・非正規労働者	140	5.8
自営業、家族ビジネス	306	12.8
主婦・主夫	436	18.2
失業中・学生	146	6.1
不明・答えたくない	9	0.4
該当者なし	576	24.0
合 計	2400	100.0

表2-5. 管理職か否か（あなたの妻・夫）

	あなたの妻・夫の仕事 (もしあれば)	
	度 数	%
管理職	310	12.9
非管理職	923	38.5
システム欠損値	1167	48.6
合 計	2400	100.0

2019年フィリピンの地方自治意識調査（1）（西村・小林・菊地・永井）

表2-6. 従業上の地位（あなたの父親・母親）

	あなたが15歳の時の 父親の仕事		あなたが15歳の時の 母親の仕事	
	度 数	%	度 数	%
正社員・正規労働者	1598	66.6	561	23.4
契約社員・非正規労働者	127	5.3	114	4.8
自営業、家族ビジネス	482	20.1	258	10.8
主婦・主夫	6	0.3	1238	51.6
失業中・学生	16	0.7	147	6.1
不明・答えたくない	17	0.7		
該当者なし	154	6.4	82	3.4
合 計	2400	100.0	2400	100.0

表2-7. 管理職か否か（あなたの父親・母親）

	あなたが15歳の時の 父親の仕事		あなたが15歳の時の 母親の仕事	
	度 数	%	度 数	%
管理職	488	20.3	260	10.8
非管理職	1719	71.6	673	28.0
システム欠損値	193	8.0	1467	61.1
合 計	2400	100.0	2400	100.0

資 料

表 2-8. あなたの配偶者はいますか？

	度 数	%
未 婚	287	12.0
既 婚	1351	56.3
離 婚	74	3.1
死 別	215	9.0
同 棲	473	19.7
合 計	2400	100.0

表 2-9. あなたはどうやって最初の夫・妻と出会いましたか？
(もし既婚か婚姻経験があれば)

	度 数	%
家族・親族によるお見合い	60	2.5
友達を通じたお見合い	91	3.8
学校で出会った	159	6.6
職場で出会った	608	25.3
家族・親族による紹介	131	5.5
友達による紹介	257	10.7
教会／モスクでの宗教活動を通じて出会った	29	1.2
隣人、幼馴染	502	20.9
結婚を斡旋する会社やインターネット・サービスを通じて出会った	83	3.5
パーティ、趣味のグループ、ボランティア活動、旅行、街角で出会った	106	4.4
その他	87	3.6
未 婚	287	12.0
合 計	2400	100.0

II-3 生 活

問20では現在の幸福感が質問された。10とても幸せがもっとも多いのが特徴的で、つぎに5どちらでもないが多かった（表3-1）。

問22では、さまざまな領域について、満足度が質問された。おおむね幸福感和似た分布となったが、自分の教育、個人および世帯年収、レクリエーション、近隣、フィリピン社会については、5どちらでもないが最多となった（表3-2）。

問23では身体的な健康が、問24ではストレス（精神的な健康）が、主観的に評価された。身体的健康はおおむね高く、10健康が最多だった。たいして、ストレスでは5どちらでもないが最多となった（表3-3、3-4）。

問27では嗜好品の摂取頻度が質問された。コーヒーがもっとも頻繁で、スイーツ、酒、茶の順で続いた。たばこは毎日摂取する人と、まったく摂取しない人に二極化していた。酒と茶は、月に1回未満とまったく摂取しない人で、7割以上となった（表3-5）。

問29では、さまざまな意見への賛否が尋ねられた。賛成が最多だったのは「他の国よりもフィリピンが好き」という意見であり、これに「貧困者はより社会に包摂されるべき」や「結婚は出産に帰結するべき」が続いた。もっとも反対が多かったのは、「ほとんどの人は信頼できる」だった（表3-6）。

資 料

表3-1. 0から10までの目盛りがあります。0はとても不幸であることを、5はどちらでもないを、10はとても幸せであることを表すものとします。この目盛りをもとにすると、現在、あなたはどの程度幸せですか？

0 = とても不幸 5 = どちらでもない 10 = とても幸せ

	度 数	%
0 とても不幸	16	0.7
1	13	0.5
2	12	0.5
3	26	1.1
4	44	1.8
5 どちらでもない	643	26.8
6	132	5.5
7	221	9.2
8	338	14.1
9	192	8.0
10 とても幸せ	760	31.7
分からない・無回答	3	0.1
合 計	2400	100.0

2019年フィリピンの地方自治意識調査（1）（西村・小林・菊地・永井）

表3-2. 0から10までの目盛りがあります。0は非常に不満足であることを、5はどちらでもないことを、10はとても満足していることを表すものとします。この目盛りをもとにすると、あなたは以下のさまざまな状況についてどの程度満足していますか？

0=非常に不満足である 5=どちらでもない 10=とても満足している

	A. 生活全般		B. 結婚している ／いた場合、 結婚生活		C. 友人		D. あなたの教育	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
0 非常に不満足である	17	0.7	12	0.5	16	0.7	38	1.6
1	19	0.8	12	0.5	17	0.7	44	1.8
2	16	0.7	9	0.4	32	1.3	42	1.8
3	43	1.8	23	1.0	36	1.5	98	4.1
4	45	1.9	31	1.3	51	2.1	108	4.5
5 どちらでもない	561	23.4	315	13.1	577	24.0	668	27.8
6	182	7.6	121	5.0	176	7.3	238	9.9
7	238	9.9	166	6.9	291	12.1	246	10.3
8	412	17.2	308	12.8	399	16.6	302	12.6
9	218	9.1	229	9.5	185	7.7	155	6.5
10 とても満足している	644	26.8	886	36.9	619	25.8	459	19.1
非該当			287 ¹⁾	12.0				
分からない・無回答	5	0.2	1	0.0	1	0.0	2	0.1
合計	2400	100.0	2400	100.0	2400	100.0	2400	100.0
	E. あなたの 仕事		F. あなた自身の 収入(仕事をして いない場合も)		G. 世帯の収入		H. レクリエー ション、趣味	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
0 非常に不満足である	10	0.4	69	2.9	30	1.3	36	1.5
1	16	0.7	49	2.0	26	1.1	36	1.5
2	19	0.8	53	2.2	48	2.0	45	1.9
3	29	1.2	74	3.1	62	2.6	83	3.5
4	37	1.5	112	4.7	112	4.7	105	4.4

資 料

5 どちらでもない	325	13.5	609	25.4	565	23.5	631	26.3
6	115	4.8	223	9.3	223	9.3	232	9.7
7	182	7.6	253	10.5	286	11.9	249	10.4
8	281	11.7	372	15.5	411	17.1	353	14.7
9	150	6.3	170	7.1	197	8.2	164	6.8
10 とても満足している	442	18.4	415	17.3	439	18.3	465	19.4
非該当	793 ²⁾	33.0						
分からない・無回答	1	0.0	1	0.0	1	0.0	1	0.0
合 計	2400	100.0	2400	100.0	2400	100.0	2400	100.0
	I. 宗教生活		J. 近 隣		K. 治 安		L. フィリピン 社会	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
0 非常に不満足である	4	0.2	44	1.8	14	0.6	34	1.4
1	13	0.5	32	1.3	24	1.0	33	1.4
2	24	1.0	35	1.5	27	1.1	30	1.3
3	28	1.2	52	2.2	27	1.1	54	2.3
4	40	1.7	69	2.9	43	1.8	71	3.0
5 どちらでもない	448	18.7	548	22.8	420	17.5	699	29.1
6	172	7.2	216	9.0	193	8.0	240	10.0
7	235	9.8	275	11.5	290	12.1	329	13.7
8	390	16.3	423	17.6	451	18.8	375	15.6
9	222	9.3	203	8.5	252	10.5	140	5.8
10 とても満足している	824	34.3	503	21.0	659	27.5	394	16.4
非該当								
分からない・無回答							1	0.0
合 計	2400	100.0	2400	100.0	2400	100.0	2400	100.0

注：1) 結婚したことがない

2) 仕事をしていない

2019年フィリピンの地方自治意識調査（1）（西村・小林・菊地・永井）

表3-3. 0から10までの目盛りがあります。0は不健康であることを、5はどちらでもないことを、10は健康であることを表すものとします。この目盛りをもとにすると、あなたはどの程度健康ですか？

	度数	%
0 不健康	15	0.6
1	15	0.6
2	16	0.7
3	41	1.7
4	72	3.0
5 どちらでもない	552	23.0
6	187	7.8
7	329	13.7
8	406	16.9
9	180	7.5
10 健康	586	24.4
分からない・無回答	1	0.0
合計	2400	100.0

表3-4. 0から10までの目盛りがあります。0は不健康であることを、5はどちらでもないことを、10は健康であることを表すものとします。この目盛りをもとにすると、あなたはどの程度ストレスがありますか？

	度数	%
0 ストレスがある	57	2.4
1	39	1.6
2	43	1.8
3	99	4.1
4	143	6.0
5 どちらでもない	751	31.3
6	238	9.9
7	276	11.5
8	271	11.3
9	158	6.6
10 ストレスがない	325	13.5
合計	2400	100.0

表3-5. あなたは以下のものをどの頻度で楽しめますか？

	A. コーヒー		B. 茶		C. スイーツ		D. 酒		E. タバコ	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
まったく摂取しない	164	6.8	1205	50.2	122	5.1	923	38.5	1582	65.9
月に1回未満	366	15.3	954	39.8	1124	46.8	840	35.0	302	12.6
月に1回	17	0.7	39	1.6	147	6.1	155	6.5	15	0.6
週に1回	75	3.1	49	2.0	248	10.3	233	9.7	27	1.1
週に2～3回	263	11.0	68	2.8	388	16.2	180	7.5	30	1.3
毎日	1515	63.1	85	3.5	371	15.5	69	2.9	444	18.5
合計	2400	100.0	2400	100.0	2400	100.0	2400	100.0	2400	100.0

資 料

表3-6. あなたは以下の意見に賛成しますか？

	A. ほとんどの人は信頼できる		B. 私は自分の人生を自由に決めることができる		C. 私は都会より田舎の方が好きだ		D. 私は他の国よりもフィリピンが好きだ		E. 現在のフィリピンは、貧富の差が大きすぎる	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
強く反対する	141	5.9	36	1.5	60	2.5	21	0.9	41	1.7
反対する	657	27.4	116	4.8	213	8.9	63	2.6	191	8.0
どちらでもない	955	39.8	320	13.3	344	14.3	178	7.4	394	16.4
賛成する	516	21.5	1211	50.5	997	41.5	1111	46.3	1048	43.7
強く賛成する	109	4.5	709	29.5	777	32.4	1017	42.4	709	29.5
分からない・無回答	22	0.9	8	0.3	9	0.4	10	0.4	17	0.7
合 計	2400	100.0	2400	100.0	2400	100.0	2400	100.0	2400	100.0
	F. 男は主に稼いで女は家にいるべきだ		G. 恋愛は結婚に結実するべきだ		H. 結婚は出産に帰結するべきだ		H.2. 貧困者はより社会に包摂されるべきだ		H.3. 同性愛者はより社会に包摂されるべきだ	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
強く反対する	153	6.4	44	1.8	28	1.2	26	1.1	167	7.0
反対する	384	16.0	138	5.8	94	3.9	63	2.6	306	12.8
どちらでもない	478	19.9	342	14.3	312	13.0	266	11.1	516	21.5
賛成する	812	33.8	1011	42.1	1091	45.5	1155	48.1	948	39.5
強く賛成する	572	23.8	861	35.9	868	36.2	881	36.7	435	18.1
分からない・無回答	1	0.0	4	0.2	7	0.3	9	0.4	28	1.2
合 計	2400	100.0	2400	100.0	2400	100.0	2400	100.0	2400	100.0

II-4 ネットワーク

住民ネットワークに関する質問セクションでは、最初に問31で様々な団体や組織の活動への参加の頻度を尋ねた。住民が最も頻繁に参加している活動は宗教学習会および信徒団体の活動で、次いで清掃などの地域の奉仕活動、地域の青年団、婦人会、老人会の活動、近所での親睦会と続く。宗教活動（地域内の教会への訪問）が、地域内でのボランティアや他の活動と相互に関わっており、宗教を通じた地域内コミュニティーでの係

2019年フィリピンの地方自治意識調査（1）（西村・小林・菊地・永井）

わりが緊密であることがうかがえる。一方でロータリークラブ、NGO や住民組織（PO）などの市民団体での活動や、協同組合やクレジット組織、金融互助組織との関わりは相対的にみて低調である。興味深いのは政党や政党関連組織での活動頻度はNGO 等の活動よりも高く、各種の業界団体（農民組織、漁業者組織、商業者組織、トライシクル所有者・運転手組織など）での活動と同程度であった。非党派性の組織よりも、地域性や党派性が高い組織の活動頻度が高いことは、地域コミュニティー単位での利益集約や党派の凝集性が高いことを示していると思われる（表4-1）。

次に、問32で各政府機関への信頼度を聞いたところ、最も信頼されている機関はバランガイ政府であり、次いで市・町政府の順番であった。住民に最も近い身近なレベルの政府機関に対する信頼が高いことは、フィリピンが長い間進めてきた地方分権改革の一つの成果ともいえるであろうし、一方で前問に対する回答の傾向との関連からは、バランガイや市・町政府レベルでの政治的、経済的な利益の凝集性が高いことの反映であるかもしれない。3番目に信頼が高い政府機関が国軍であり、次いで僅差で中央政府、警察と続き、最も信頼の度合いが低かったのが州政府であった（表4-2）。

続く問33.2では、地域の行政関係者や有力者などと会う頻度を尋ねた。最も接触頻度が高いのが神父・牧師などの宗教指導者であり、次いでバランガイ議員、バランガイ警察、バランガイ長、バランガイ秘書役、バランガイ開発協議会委員と、バランガイ関係者が続く。市・町政府職員や議員との接触頻度がバランガイに比べてかなり低いことから、バランガイの広さ程度のコミュニティーが日常の生活圏であることがうかがえる。加えて、毎週日曜の礼拝など、フィリピンでは日常生活における宗教指導者の役割や影響力が地域社会では大きいことが特徴であるといえる（表4-3）。

最後に、問34.2で自治体やバランガイレベルでの会合や行事への最近6年間（2013年1月以降）の参加頻度を聞いた。バランガイ会議と清掃・緑化運動や祭りなどの地方自治体主催の催しの二つは年に1度以上参加している割合がほぼ一緒の約48%で、次いで、バランガイ内のさらに小さな区画でありわが国の町内会の班のイメージに近い地区（purok）単位での会議への参加が約44%であった。約半数の住民がバランガイや自治体単位での会議や催しに年に1度以上は参加していることになり、日常生活や地域社会でのコミュニティーレベルの政府組織の役割が大きいことが分かった（表4-4）。

資 料

表 4-1. あなたは次の団体・組織の活動にどのくらいの頻度で参加していますか？

	A. 地域の青年団、婦人会、老人会		B. スポーツ、芸術、趣味の団体		C. クレジット組織、金融互助組織		E. 協同組合		F. 農民組織、漁業者組織、商業者組織、トライシクル所有者・運転手組織など		H. 宗教学習会および信徒団体	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
全くない／非該当	1075	44.8	1305	54.4	1717	71.5	1773	73.9	1654	68.9	778	32.4
半年に1回より少ない	664	27.7	662	27.6	382	15.9	407	17.0	398	16.6	606	25.3
半年に1回	107	4.5	98	4.1	58	2.4	84	3.5	112	4.7	104	4.3
月に1回	436	18.2	136	5.7	66	2.8	77	3.2	175	7.3	258	10.8
週に1回	96	4.0	159	6.6	164	6.8	53	2.2	38	1.6	608	25.3
毎日	22	0.9	40	1.7	12	0.5	5	0.2	23	1.0	46	1.9
わからない／無回答					1	0.0	1	0.0				
合計	2400	100.0	2400	100.0	2400	100.0	2400	100.0	2400	100.0	2400	100.0
	I. 政党や政党関連組織		K. 近所での親睦会		M. 清掃など地域の奉仕活動		M.2. 学校の同窓会		M.3. ロータリークラブ、NGO、住民組織（PO）などの市民団体			
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
全くない／非該当	1466	61.1	908	37.8	850	35.4	1396	58.2	2033	84.7		
半年に1回より少ない	701	29.2	820	34.2	695	29.0	777	32.4	282	11.8		
半年に1回	96	4.0	261	10.9	201	8.4	117	4.9	40	1.7		
月に1回	95	4.0	309	12.9	384	16.0	79	3.3	36	1.5		
週に1回	29	1.2	80	3.3	193	8.0	24	1.0	7	0.3		
毎日	12	0.5	20	0.8	76	3.2	6	0.3	1	0.0		
わからない／無回答	1	0.0	2	0.1	1	0.0	1	0.0	1	0.0		
合計	2400	100.0	2400	100.0	2400	100.0	2400	100.0	2400	100.0		

2019年フィリピンの地方自治意識調査（1）（西村・小林・菊地・永井）

表4-2. あなたは次の組織・機関をどのくらい信頼していますか？

	A. 中央政府		B. 州政府		C. 市・町政府		D. バランガイ政府		E. 警察		F. 国軍	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
全く信頼していない	58	2.4	32	1.3	50	2.1	53	2.2	76	3.2	51	2.1
それほど信頼していない	202	8.4	119	5.0	149	6.2	151	6.3	226	9.4	137	5.7
どちらでもない	709	29.5	522	21.8	631	26.3	533	22.2	673	28.0	660	27.5
ある程度信頼している	891	37.1	676	28.2	920	38.3	905	37.7	878	36.6	886	36.9
とても信頼している	528	22.0	443	18.5	645	26.9	754	31.4	537	22.4	654	27.3
わからない/無回答	12	0.5	608	25.3	5	0.2	4	0.2	10	0.4	12	0.5
合計	2400	100.0	2400	100.0	2400	100.0	2400	100.0	2400	100.0	2400	100.0

資 料

表 4-3. あなたは次の人物に昨年どのくらいの頻度で会いましたか(最近12か月間)?

	A. 住宅所有者 組合の役員		B. 住宅所有者 組合の会長		C. バランガイ 警察		D. バランガイ 議員		E. バランガイ 秘書役	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
全く会っていない	725	30.2	763	31.8	683	28.5	588	24.5	678	28.3
半年に1回より少ない	158	6.6	141	5.9	626	26.1	659	27.5	728	30.3
半年に1回	33	1.4	26	1.1	64	2.7	88	3.7	113	4.7
月に1回	66	2.8	46	1.9	193	8.0	219	9.1	224	9.3
週に1回	22	0.9	22	0.9	271	11.3	347	14.5	297	12.4
毎 日	10	0.4	18	0.8	522	21.8	467	19.5	322	13.4
非該当	1385	57.7	1383	57.6	41	1.7	31	1.3	31	1.3
わからない/無回答	1	0.0	1	0.0			1	0.0	7	0.3
合 計	2400	100.0	2400	100.0	2400	100.0	2400	100.0	2400	100.0
	F. バランガイ議員 を除くバランガイ 開発協議会委員		G. バランガイ長		H. 市/町政 府職員		I. 市/町政府 の首長/助役		J. 市/町議 会議員	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
全く会っていない	863	36.0	537	22.4	1019	42.5	1078	44.9	1138	47.4
半年に1回より少ない	662	27.6	730	30.4	884	36.8	867	36.1	838	34.9
半年に1回	88	3.7	119	5.0	132	5.5	161	6.7	127	5.3
月に1回	238	9.9	240	10.0	172	7.2	144	6.0	136	5.7
週に1回	241	10.0	332	13.8	83	3.5	54	2.3	52	2.2
毎 日	232	9.7	413	17.2	39	1.6	22	0.9	25	1.0
非該当	71	3.0	26	1.1	70	2.9	72	3.0	82	3.4
わからない/無回答	5	0.2	3	0.1	1	0.0	2	0.1	2	0.1
合 計	2400	100.0	2400	100.0	2400	100.0	2400	100.0	2400	100.0
	K. 市/町議会議員 を除く市/町 開発協議会委員		L. 神父・牧師 /宗教指導者		M. 住民組織(PO) /非政府組織 (NGO)のスタッフ		N. 警察官			
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
全く会っていない	1191	49.6	524	21.8	1416	59.0	979	40.8		
半年に1回より少ない	807	33.6	553	23.0	604	25.2	750	31.3		
半年に1回	131	5.5	113	4.7	78	3.3	107	4.5		
月に1回	114	4.8	334	13.9	72	3.0	170	7.1		
週に1回	40	1.7	787	32.8	31	1.3	160	6.7		
毎 日	25	1.0	55	2.3	13	0.5	182	7.6		
非該当	91	3.8	26	1.1	184	7.7	45	1.9		
わからない/無回答	1	0.0	8	0.3	2	0.1	7	0.3		
合 計	2400	100.0	2400	100.0	2400	100.0	2400	100.0		

2019年フィリピンの地方自治意識調査（1）（西村・小林・菊地・永井）

表4-4. 最近6年間（2013年1月以降）で、あなたは次の行事にどのくらいの頻度で参加しましたか？

	A. 地区(purok)*		B. バランガイレベルの会議 (バランガイ会議)		C. 清掃・緑化運動や祭りなど、地方自治体主催の催し	
	度数	%	度数	%	度数	%
全くない/該当なし	794	33.1	742	30.9	790	32.9
6年に1, 2回	295	12.3	279	11.6	239	10.0
2年に1回	132	5.5	121	5.0	119	5.0
6年に4, 5回	105	4.4	95	4.0	85	3.5
毎年	427	17.8	469	19.5	633	26.4
年1回以上	647	27.0	694	28.9	534	22.3
合計	2400	100.0	2400	100.0	2400	100.0

注* 地区(purok)は、バランガイ内の区画。バランガイのように選挙で指導者が選出される政治単位ではないが、バランガイ内でのサービスや情報などの提供単位として機能する。

II-5 地方自治体と政治

問35で政治意識について尋ねた。政治に関心があると答えた者は37.9%で、関心がないと答えた者(32.7%)よりも多く、さらに、市・町やバランガイの財政状況に関心を持つ者は4割を超えており、全体的に政治には比較的関心が高いことがうかがえる。また、政治においてリーダーシップを重視する者は60.5%であるのに対し、住民参加を重視する者は13.1%にとどまった(表5-1)。

次に、問37.2および問37.3で、2016年の大統領選挙と副大統領選挙でだれに投票したのかを聞いた。その結果、大統領選挙ではドゥテルテ候補(現大統領)に投票した者が1295人(54.0%)、副大統領選挙ではロブレド候補(現副大統領)に投票した者が930人(38.8%)である。実際の選挙でのドゥテルテ候補の得票率は39.01%、ロブレド候補の得票率は35.11%であるため、本調査の結果は、特に大統領選挙についてはドゥテルテ候補への投票者が際立って多くなっている(表5-2, 5-3)。

さらに、問38で、州知事選挙・市町長選挙・バランガイ長選挙について、調査時の現職を直近の選挙(州知事選挙と市町長選挙は2016年5月、バランガイ長選挙は2018年5月)で支持したかどうか尋ねた。州知事選挙では55%が、市町長選挙では75%が、バラ

資 料

ンガイ長選挙では71%が当選者に投票したと回答している（表5-4）。

問39.2および問40では買票について尋ねた。候補者やその支持者から金品を受け取ることができるかどうかを聞いた問39.2では、受け取ることに否定的な回答をした者が圧倒的多数（81%）を占めた（表5-5）。また、実際に買票に接する機会があったか否かを尋ねた問40でも、大多数（およそ7割）が接する機会がなかったと回答した。接したことがあると回答した中では、市長・町長候補が最も多く、次いでバランガイ長候補、バランガイ議会議員候補、市町議会議員候補の順に多かった（表5-6）。

問41.2では、市や町政府から住民に対する政策や事業の周知状況について尋ねた。住民生活に関係が深い公共事業として道路の補修（問41.2_A）、住民が履行を求められる義務としての土地および固定資産税（問41.2_B）に関して告知があったか否かを尋ねた。道路の補修についてはおよそ6割が、土地および固定資産税ではおよそ4割が告知を認知していた（表5-7）。

表5-1. 次の意見に同意しますか？

	A. 私は政治に興味をひかれる		B. 私は市／町の財政を気にかけている		C. 私はバランガイの財政を気にかけている		D. 政治において、強いリーダーシップは住民の積極的な参加よりも重要だ	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
全く同意しない	249	10.4	231	9.6	213	8.9	78	3.3
同意しない	534	22.3	479	20.0	469	19.5	236	9.8
どちらでもない	686	28.6	595	24.8	571	23.8	604	25.2
同意する	690	28.8	766	31.9	791	33.0	966	40.3
とても同意する	218	9.1	269	11.2	288	12.0	484	20.2
分からない／無回答	23	1.0	60	2.5	68	2.8	32	1.3
合計	2400	100.0	2400	100.0	2400	100.0	2400	100.0

2019年フィリピンの地方自治意識調査（1）（西村・小林・菊地・永井）

表5-2. 2016年の大統領選挙ではどの候補に投票しましたか？

	度 数	%
ドゥテルテ	1295	54.0
ロハス	240	10.0
ポー	286	11.9
ビナイ	194	8.1
サンチャゴ	27	1.1
投票していない／白票／有権者登録をしていない	308	12.8
答えない／秘密	50	2.1
合 計	2400	100.0

表5-3. 2016年の副大統領選挙ではどの候補に投票しましたか？

	度 数	%
カエタノ	266	11.1
ロブレド	930	38.8
エスクデロ	220	9.2
マルコス	518	21.6
ホナサン	5	0.2
トリリャネス	1	0.0
投票していない／白票	365	15.2
答えない／秘密	95	4.0
合 計	2400	100.0

資 料

表5-4. 直近の選挙において、あなたが選んだ候補は当選しましたか？

	A. 州知事選挙		B. 市長・町長選挙		C. バランガイ長選挙	
	度数	%	度数	%	度数	%
いいえ	227	9.5	285	11.9	381	15.9
はい	1319	55.0	1802	75.1	1702	70.9
投票していない/白票/有権者登録をしていない	254	10.6	311	13.0	313	13.0
非該当（マニラ首都圏のみ）	600	25.0				
わからない／無回答			2	0.1	4	0.2
合計	2400	100.0	2400	100.0	2400	100.0

表5-5. 選挙（大統領，国会議員，州知事，市／町長，バランガイ長）に当選するための戦略として，その候補者を選ぶようにお金や品物を渡す候補者自身やその支援者がいます。あなたは，そうした贈与は当然のものとして受け取ることができますか？

	度数	%
当然のものとして受け取ることができる	240	10.0
ある程度は受け取ることができる	214	8.9
あまり受け取ることができない	147	6.1
受け取ることができない	1798	74.9
わからない／無回答	1	0.0
合計	2400	100.0

2019年フィリピンの地方自治意識調査（1）（西村・小林・菊地・永井）

表5-6. 次のそれぞれの直近の選挙において、あなたは選挙運動期間中に特定の候補者を選ぶようにお金または品物の申し出をされたことがありますか？（複数回答可）

	度 数
申し出をされたことはない	1710
市長・町長候補	363
バランガイ長候補	312
バランガイ議会議員候補	227
市町議会議員候補	211
州議会議員候補	143
州知事候補	108
下院議員候補	78
大統領候補	50
上院議員候補	29
副大統領候補	18
分からない／答えたくない	75

表5-7. あなたは直近12か月の間に、次にある事項についての告知を市／町政府から受け取ったことがありますか？

	A. 道路の補修		B. 土地および固定資産税	
	度 数	%	度 数	%
いいえ	1006	41.9	1397	58.2
はい	1394	58.1	1003	41.8
合 計	2400	100.0	2400	100.0